



にじのはし幼稚園 園だより



令和 6 年 2 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

もうすぐ節分です。子どもたちは学年ごとに鬼の面や升を作り、節分の豆まきを楽しみにしています。自分の中の悪い鬼を追い出す豆まきは、幼児が自分と向き合い、「成長したい」「よくなりたい」と自分で願いを考え、変えたいところ・変わりたい自分を意識するきっかけとなります。客観的に自分を見ることができるようになった証でもあります。日本の伝統行事から、子どもたちの心の成長が伺えます。

さて、2月初旬には「にじっこコンサート」があります。学年ごとに発達に合った歌や楽器遊び、合奏に取り組みます。本園の子どもたちは音を介した活動が大好きです。思い切り楽しみ、さらにそれを「誰かに伝えたい」「一緒に楽しみたい」と思いながら、豊かに表現しています。

歌を歌うときには、単に言葉を覚えて歌うのではなく、一人ひとりが歌詞の内容をイメージしながら歌うことを大切にしています。情景を思い浮かべ、その歌詞に思いを寄せながら、そこに歌のリズムや曲調、音などを聴き、感じながら歌うことで、歌うことの楽しさを感じています。また、歌や合奏などの音楽で、心を動かして感じ、イメージを抱くことによって、内面が育ち、やがて思いや意図をもった主体的な表現につながります。

一人ひとりの幼児が音を聴いて何を感じ、何に気付き、どのような感情を抱き、どのようにイメージを広げ表現をしているのか、子どもの内面に関心を寄せながら支えるとともに、幼児に感情体験を積み重ね、感じる心（感性）を豊かに育ててまいります。

幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針 <主体性を発揮する子ども>からの抜粋

<主体的に遊びや生活に取り組む子ども>

- ① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ子ども
- ② 感じたこと考えたことを自分なりに表現して楽しむ子ども
- ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ子ども

